

女性協議会第44回定期大会

改善のために「声を出す」重要性

小室淑恵さんの講演も

民放労連女性協議会第四四回定期大会が10月28日(土)に東京・全理連ビルで行われ、北海道から九州まで各地連・単組・本部から合計二名が参加しました。

まず、2017年度の方針案・議案の提案がありま

した。働きやすい職場の実現に向けた取り組みをはじめとして、五つの課題別の運動方針について討議が行われました。

続いて、各単組と各地連から報告が行われました。

単組ごとに様々な事情を抱えていますが、特に印象に残ったのは「声を出すことの重要性」でした。

ある単組では、社内に更衣室など着替える場所がなく困っているという声が上がりました。会社に要求したところ、その声に応じる形で休憩室を獲得することができたそうです。更衣室だけでなく育児休暇中の社員が手続きで会社を訪れた際に、授乳スペースとして活用でき、多くの方から

助かったという声があったそうです。他の単組では、健康診断を男女一緒に行っていたため困っているという声がありました。健康診断の日程をずらすなどの改善があったそうです。

このように各職場から声を出すことで改善されたという意見も多く上がり、改めて声を出すことの重要性を確認しあいました。

また、組合加入者の減少や、女性組合員の活動の難しさに頭を悩ませている単

組も多く、定例的に女性社員で朝に集まる取り組みを始め、

育休を取って復職した先輩社員に話を聞くなど、若い女性組合員の不安を取り除く機会を設けている単組もあるそうです。

後半は株式会社後半は株式会

社ワーク・ライフバランスの代表取締役社長の小室淑恵さんによる講演がありました。小室さんからは説得力のあるデータをもとに「なぜ働き方改革を行わなければならないのか」を説

明していただきました。いま、日本で直面している問題として、労働力人口

が減少し、働く世代が引退世代を支える社会保障制度の維持が困難になってきています。この状況を解決するには、教育水準も高く潜在的な労働力になりえる「女性の活躍」と今後の長期的な労働力の確保としての「少子化対策」が鍵を握っているとのこと。そして「女性の活躍」と「少子化対策」に特に有効なのは「男性の働き方改革」だ

そうです。最後に、小室さんがコンサルティングをされている各社で取り組まれている具体的な「働き方の見直し」についても説明していただきました。



地連・単組からさまざまな報告

最後に、小室さんがコンサルティングをされている各社で取り組まれている具体的な「働き方の見直し」についても説明していただきました。

単なる労働時間の削減だけに受け取られることが多い「働き方改革」ですが、その本質を見極めて取り組む必要があると考えさせられる内容でした。小室さんは働き方に関する本を数多く出版されています。皆さんも機会がありましたら読んでみてはいかがでしょうか。

か。